

国語力を高めるための 書くことの指導はどうあればよいか

白河市立白河第一小学校教諭 鈴木 信 正

一、研究の趣旨

新学習指導要領に基づく国語科指導は、言語教育の立場を一貫させ低調な作文力と貧弱な語彙力の向上を目指す。果たして、児童の普段の学習及びノート、作文などを、文字量、漢字・語句構成、表現、内容から分析して見ると、書けない(書き慣れない)実態が歴然となる。当然のように、問題点として、

- (1) 文章の意味理解がふじゅうぶんである。
- (2) 何を書くかわからず書くのが遅い。
- (3) 語彙が少なく表現が単調である。

などがあげられる。

- (1) 普段の学習が、読解にかたよっていた。
- (2) 書くことは、動作化と同様に読むことの一方法と見られていた。
- (3) 漢字語句は書き取りがほとんどだった。

という原因によるものと考えられる。そこで、基本的能力である書く力を高めるための指導内容と方法を研究し、自己の指導法の改善に努めようと考え、二年生三十七名を対象に研究した。

二、研究の内容

(一) 研究に当たっての仮説

読解と作文において、視写、文章構

成、語句を計画的に指導すれば、児童は進んで書く力を高めることができる。

(二) 事前研究の段階

- (1) 児童の実態を客観的には握するため、意識調査、自作漢字テスト、標準学力検査を行い、分析考察を加えた。
- (2) 研究主題、仮説及び研究計画についての理論研究を行った。

(三) 研究実践、検証の段階

- (1) 児童側の評定尺度
仮説に基づく指導の結果として身につけられ高められると思われる諸技能は、次のような観点から整理されよう。
- ① 順序を考え、様子のよく分かる作文(文章)を書くことができる。

資料1 児童側の評定尺度

評定段階 観点	1	2	3	4	5
① 作文の構成内容	ほとんど何も書けない。	いろいろな書いているが読み取れない。	初め中終のわりが分る。	段落を意図して書いている。	段落構成が整いやすい。
② 自作の語句テスト	正答率40%未満	正答率40%以上60%未満	正答率60%以上80%未満	正答率80%以上90%未満	正答率90%以上
③ 教科書教材文の1分間視写	10字未満	10字から14字	15字から19字	20字から24字	25字以上
④ 作文ノートメモ及び文	指示されても全くと書けない。	指示されながらも全くと書ける。	指示されながらも全くと書ける。	指示が無くても全くと書ける。	自分から題材を選んで書ける。
⑤ 作文及び国語学習帳	指示されても全くと書けない。	指示されながらも全くと書ける。	学習記録(板書の)を全くと書ける。	板書を全くと書ける。	自分の考えを全くと書ける。

資料2 検証のための単元名・教材名

実施月	単元名(教材名)	主な書くこと	備考
4月	一 ようすをおもうかべながら読みましよう。春の10月り歌	○読後感想 ○想像、考え ○文構成、表現の理解のための視写	4時目を、本校バイオニア授業研究として、新研究者並びに本校国語研究員に指導を受けた。
5月	三 書くことを見つけて書きましょう。作文のノート(赤ちゃん)12時間	○作文カード ○作文ノート ○やさしいお母さんをテーマに作文を書く	2時目を、校内研究会授業研究として、石田佐久馬先生、県国語部長、西白河地区国語部員の方々に指導を受けた。
6月上旬	六 じゅんじょに気をつけて読みましよう。かえるのくらし。たんぼのちえ12時間	○読後感想 ○気がついたこと ○分かったこと ○客観的記述、文章構成理解のための視写	5時目を、県南教育事務所大森先生、白河市教育委員並びに東白川地区国語指導員の方々に指導をいただいた。
6月下旬	七 よく見て書きましよう。生きもの(うさぎ)12時間	○作文カード ○作文ノート(構想ノート) ○生きもの(うさぎ)の作文 ○その他の作文	5時目を、校内研究会に合わせ、本庁指導主事小幡先生の外、多数の先生の指導を得ることができた。

- ② 語句学習の仕方を知り、進んで語彙を増す学習ができる。語句テスト
- ③ 文や文章を、正しく速く美しく視写することができる。五分間視写
- ④ 書くことに慣れ、進んで作文(文章)を書くことができる。作文ノート
- ⑤ 既習の漢字や語句を、書くことに使うことができる。国語帳・作文

なお、適正に評価するため次の評定尺度を設け右の事項について判定する。

- (2) 教師側の評定尺度
仮説に基づく学習指導の望ましい姿を追求するため、自分の授業を客観的に評価してもらう観点と評定尺度を設定した。その主な内容は、児童側と教師側の双方について、学習の構え、技